

## 答辞

桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日、私たちはこの日を迎えました。  
お忙しい中、ご臨席くださいました皆さまに、代表して感謝を申し上げます。

いま思い返してみると、わたくしたちは在学期間の大半を、マスクをつけて過ごしてきました。  
はじめは友人同士で、はっきりとお互いの顔を認識できないこともありました。

授業は90分間ありました。その内容の難しさやコロナへの不安に、心が折れそうになりつつも、  
学びへの自覚がじわじわと湧いてきました。

授業や学生生活を通して得られた経験は、わたくしたちに多くの成長をもたらしてくれました。

異なる国や地域出身の学生とは、お互いの慣習の違いを知ることで異文化交流を促しました。  
学んだ知識だけでなく、日本語や外国語のコミュニケーション・スキルの向上は、国際的な視野を  
広げることにつながりました。これらは教職員のかたがたのご支援の賜物です。

このほかにも学生生活を通じて、社会の様々な人と関わることもできたことも、大きな収穫でした。  
一方で、日本や世界を取り巻く国際環境はここ二年ほどの間に大きく様変わりしました。

軍事侵攻や紛争の脅威を目の当たりにし、個人としての力の及ばなさを  
今更ながらに痛感しています。

不安定な世界情勢に起因する物価高については、  
外国に住むわたくしたちの保護者のあいだでも心配の声が聞かれます。  
入学から四年が経ち、わたくしたちは学びの機会を終えて、外の世界へ成長の第一歩を踏み出  
します。今やコロナの時代から、ポスト・コロナという新たな時代に入りました。

今日まで、大学で積み重ねた日々が、明日のわたくしたちの人生に大きな影響を及ぼすのだとい  
うことを忘れることなく、大阪観光大学で学んだ知識と経験を生かして社会で はばたけるよう、  
力を尽くします。

今後、大きな壁にぶつかったとしても、本学で得た多くの思い出や学び、  
誇りを人生の糧として生きてまいります。

最後になりましたが、大阪観光大学の益々のご発展を心より祈念して、答辞といたします。

令和6年3月18日  
林 煌鑫